

12月は大掃除などでごみが多く出る時期です。

**ごみの分別と減量を心がけ、
可燃ごみを減らしていきましょう。**

ごみ処理が抱えている課題

1. 温室効果ガスを46%削減

- ・2015年のパリ協定で、日本は温室効果ガスの削減目標を「2030年までに2013年度比で26%削減」としていましたが、2021年の気候サミットで、目標を「46%削減」に引き上げました。

2. 焼却施設の処理限界まであと3%

- ・中遠クリーンセンターの年間処理限界量は34,000tですが、令和元年度の処理量は32,900tに達しています。

3. ごみ処理費用に年間約12億円

- ・令和元年度の袋井市の歳出は約352億円で全体の約3.5%を占めており、市民一人あたりでは、年間約14,000円を負担しています。

これらの課題を解決していくには
可燃ごみを減らしていかなければなりません。

可燃ごみの減量

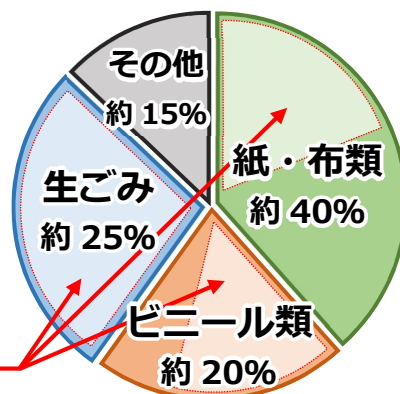
家庭から出る可燃ごみは、大きく分けて
「紙・布類」、「ビニール類」、「生ごみ」の
3つに分けられます。

分別や減量を徹底すれば

- ・「紙・布類」は約半分
- ・「ビニール類」は約4分の3
- ・「生ごみ」は全て

を減らすことができます。

可燃ごみの内訳



削減可能

紙・布



紙と布にはリサイクルできるものがあります。
市役所に設置されている回収ボックスや市内の民間の回収ステーションのほか、地域の集団回収などで出すことができます。

市内の回収
場所一覧



紙

リサイクル可能



燃えるごみ

汚れた紙、ティッシュ、
感熱紙、圧着はがき、
シール、防水加工紙 など

現在はリサイクルできませんが、今後、「雑紙」としてリサイクルできるよう取り組んでいます。

布

回収できるもの

衣類全般
(汚れがないもの)

回収できないもの

汚れや臭いがついた衣類、布団
等の寝具類、カーペット類など

※場所によって回収できるものが異なりますので設置者に御確認ください。

※まだ着れる服や靴などは、古着屋やフリーマーケットで売ることができます。

ビニール類



ビニール類の中には、リサイクル可能な「プラスチック製容器包装」が含まれています。
プラスチックをごみとして処分するときには、

プラスチック製容器包装 (リサイクル対象)

ボトルやトレーなど、商品の容器や包装で使われていたもの

その他プラスチック(商品プラスチック)

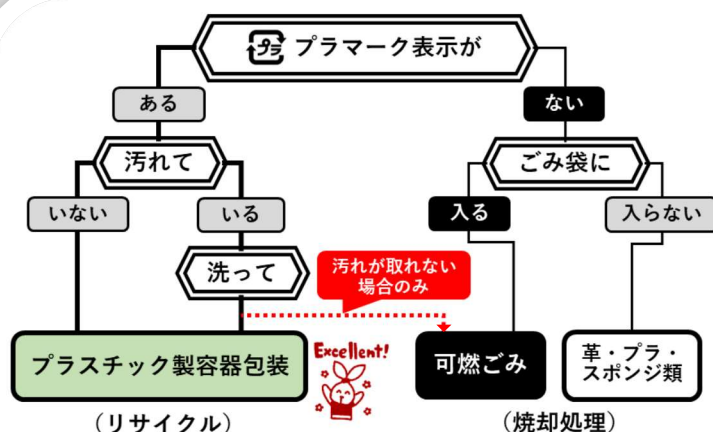
ストローやポリバケツなど、それ自体が商品そのものであったもの

の2種類に分けられ、その他プラスチックは焼却処理となりますが、**「プラスチック製容器包装」は分別回収してリサイクル**しています。

本体や包装にプラマークがあるか確認し、汚れがついている場合には、拭き取ったり軽く水洗いして汚れを取り除いてください。

多少の汚れが残ってしまっても問題はありません。

色々なプラスチック
製容器包装のリサイ
クルの仕方



生ごみ

まずは生ごみの発生量を減らし、最終的には生ごみ処理機などを使ったリサイクルを目指しましょう。



①



③



②



①「食品ロス」を削減して、発生する生ごみの量を減らす。

食品ロスの原因

食べ残し

料理を食べ切れずに捨てる

直接廃棄

消費期限切れなどで未使用のまま捨てる

過剰除去

皮の剥き過ぎなどで食べられる部分まで捨てる

食品ロス削減のコツ

- 【買いすぎない】 買い物前に冷蔵庫をチェックして計画を立てる
- 【使いきる】 冷蔵庫を見やすく整理して食材のムダを減らす
- 【食べきる】 食べきれない量を作り、残った料理はリメイクして食べる

②燃えるごみで出す場合は、「水切り」をして水分を減らす。

生ごみの60～70%は水分で、ギュッとひと絞りするだけでも10%の減量効果があります。

水切りのポイント

- 【濡らさない】 野菜は洗う前に皮をむく
- 【乾かす】 一晩おいてから袋に入れる
- 【しぼる】 捨てる前にぎゅっとしぼる

③コンポストや生ごみ処理機などを使う。

生ごみ減量（水切り10%）大作戦



おわりに

ごみの分別・リサイクルを市民全員が徹底すれば、家庭から出る可燃ごみは半分以上減らすことができます。

「誰かがやる」ではなく「自分がやる」ことで可燃ごみを減らしていきましょう。

この紙は「雑紙」としてリサイクルできます。

コラム ～Kurikindi, the golden hummingbird～

The forest was on fire.

All of the animals, insects, and birds in the forest rushed to escape.

But there was one little hummingbird named Kurikindi, or Golden Bird, who stayed behind.

This little bird went back and forth between water and fire, dropping a single drop of water from its beak onto the fire below.

When the animals saw this, they began to laugh at Kurikindi.

"Why are you doing that?" they asked.

And Kurikindi replied, "I am only doing what I can do."